2015 年 10 月 16 日

報道関係各位

東京ミッドタウンマネジメント株式会社

次世代を担うアーティスト・デザイナーを発掘、応援する

「Tokyo Midtown Award 2015」 結果発表

受賞作品展示　10 月 16 日（金）～11 月 8 日（日）

東京ミッドタウン　プラザ B1F オープンスペース

東京ミッドタウン（事業者代表　三井不動産株式会社）は、“「JAPAN　VALUE（新しい日本の価値・感性・才能）」を創造・結集し、世界に発信し続ける街”をコンセプトに街づくりを進めています。その活動の一環として開催中の、「Tokyo Midtown Award 2015」アート・デザイン両部門において、この度、計 1,566 点の応募作品の中から、グランプリ 2 作品を含む受賞作品 14 作品が決定しました。

＜Tokyo Midtown Award 2015　グランプリ受賞作品＞

＜アートコンペ＞
テーマ：応募者が自由に設定
作品名　：『五金超大国Ⅱ』
受賞者　：　田島 大介

＜デザインコンペ＞
テーマ：おもてなし
作品名　：『ことはね』
受賞者　：　吉田　貴紀／栗原　里菜

今年で 8 回目となる本アワードは、＜アートコンペ＞＜デザインコンペ＞の 2 部門で開催され、2 部門総計 1,566 点の応募作品の中から、＜アートコンペ＞では、心象風景を 194cm×336cm というサイズの細密画で描き上げ、圧倒的な存在感を示した『五金超大国Ⅱ』（ごきんちょうたいこく 2）、＜デザインコンペ＞では外国人観光客に向けて「自分が話せることば」を表明するツールとしてデザインされた国旗模様の羽『ことはね』がグランプリに選出されました。『五金超大国Ⅱ』を制作した田島さんは、弱冠 22 歳と今までの＜アートコンペ＞グランプリ受賞者の中で最年少となります。受賞作品の詳細は、次頁以降をご参照ください。

受賞作品 14 点は、10 月 16 日（金）から 11 月 8 日（日）までの約 1 ヵ月、東京ミッドタウンのプラザ B1F オープンスペースにて展示します。また、11 月 3 日（火・祝）まで、来街者の一般投票で人気作品を選出する「オーディエンス賞」も実施。結果は 11 月 6 日（金）に東京ミッドタウン・オフィシャルサイトにて発表いたします。

なお、東京ミッドタウンでは 10 月 16 日（金）から 11 月 3 日（火・祝）まで、デザインイベント「Tokyo Midtown DESIGN TOUCH 2015」を開催しており、館内各所で様々な展示をお楽しみいただけます。

■掲載時の一般の方のお問い合わせ先■　東京ミッドタウン・コールセンター　TEL：03-3475-3100

■東京ミッドタウンホームページ■　www.tokyo-midtown.com

■Tokyo Midtown Award　ホームページ■　http://www.tokyo-midtown.com/jp/award/

＜アートコンペ＞　テーマ:「応募者が自由に設定」

昨年度から＜アートコンペ＞では作品のテーマを「応募者が自由に設定」とし、東京ミッドタウンの街路に設置することを意識して制作いただく、サイトスペシフィックな作品を募集しました。応募者自身が設置場所を選び、作品を提案できる自由さがある一方で、商業施設に作品を置くパブリックアートとしての構築や自身のテーマを厳しく問われるコンペでもあります。見事 2 次審査を通過した 6 名の入選者には制作補助金 100 万円が支給され、実際に東京ミッドタウンで作品の設置を行い、9 月 28 日（月）の最終審査を経て、各賞が決定しました。

グランプリ受賞者は、University of Hawai'i at Mānoa / Department of Art and Art History※1 が実施するアートプログラムへ招聘されます。

＜グランプリ＞

作品名：『五金超大国Ⅱ』（ごきんちょうたいこく 2）
受賞者：　田島　大介（たじま　だいすけ）

＜作家コメント＞

自分自身の居場所や存在意義を見失ったとき、孤独や不安を満たしてくれる自分だけの世界に閉じこもりたいと願いました。
この作品は憧れや切望するものだけに囲まれた自分の心の居場所であり、自分が信じることができる世界の姿です。

＜アートコンペ＞概要

テ　ー　マ　：　応募者が自由に設定
応 募 期 間　：　2015 年 5 月 1 日（金）～5 月 21 日（木）
審 査 方 法　：　1 次審査（書類審査）→2 次審査（模型によるプレゼンテーション）→最終審査
審　査　員　：　児島やよい(フリーランス・キュレーター／ライター／慶應義塾大学、明治学院大学非常勤講師)
清水敏男(東京ミッドタウン・アートワークディレクター／学習院女子大学教授)
土屋公雄(彫刻家／愛知県立芸術大学教授／武蔵野美術大学客員教授)
中山ダイスケ(アーティスト／東北芸術工科大学グラフィックデザイン学科教授)
八谷和彦(メディア・アーティスト／東京藝術大学先端芸術表現科准教授)
協　　力　：　TOSHIO SHIMIZU ART OFFICE
後　　援　：　University of Hawai' i at Mānoa / Department of Art and Art History (※1)
賞（賞 金）：　グランプリ（1 点）―――――――――――――――――――――――――――― ¥1,000,000
準グランプリ（1 点）―――――――――――――――――――――――――――― ¥500,000
優秀賞（4 点）―――――――――――――――――――――――――――― ¥100,000
別途、入選者 1 人、または 1 組につき、制作補助金 100 万円を支給
入賞者 6 名は来春の「ストリートミュージアム」に参加※2

※1　University of Hawai' i at Mānoa / Department of Art and Art History について
＜アートコンペ＞グランプリ受賞者を、University of Hawai' i at Mānoa の Department of Art and Art History が実施するアートプログラムに招聘いたします。歴史ある本プログラムへは、これまで数多くのアーティストや学術者が招かれ、ハワイの芸術文化に触れながら、各種のアートプログラムを行っています。受賞者には、実際にハワイに滞在し、ハワイ大学のアートプログラムに参加しながら作品を制作する機会が与えられます。
※2　東京ミッドタウンが春のイベントの中で開催する「ストリートミュージアム」（2016 年初春予定）での作品展示の機会が与えられ、新作の発表の場として活用できます。また、ワークショップなどの開催も可能です。

グランプリ作品詳細及び準グランプリ、優秀賞、審査員特別賞の作品については、添付参考資料をご参照ください。

＜デザインコンペ＞　テーマ:「おもてなし」

今年の＜デザインコンペ＞のテーマは、「おもてなし」。人をあたたかく迎えるおもてなしの心。それは日本が持ち続けている美しい伝統ともいえます。日本ならではの技術や伝統を活かし、かつ日本の心づかいが感じられる作品を募集しました。

結果、昨年を上回る 1,316 点の応募があり、様々な観点から「おもてなし」を表現するデザインが集まりました。その中で、“提案（プレゼンテーション）力”、“テーマの理解力”、“消費者ニーズの理解力”、“商品化の可能性”に加え、なによりも“個性豊かなデザイン”を基準に応募シート（プレゼンテーションシート）を審査後、意匠権調査を経て、グランプリ・準グランプリ・優秀賞（各１点）、審査員特別賞（５点）の計８作品が決定しました。グランプリ受賞者は来春、国際家具見本市「ミラノサローネ」※1 開催中にイタリア・ミラノへご招待します。また受賞作品には、今後継続的に商品化等のサポートを行う予定です。

＜グランプリ＞

作品名：『ことはね』

受賞者：吉田　貴紀（よしだ　たかのり）
　　栗原　里菜（くりはら　りな）

＜作品コンセプト＞

国旗模様の羽は「私はこの国の言語を話せます」という表明。胸元や帽子にファッション感覚で身につければ、日本へ訪れた外国人観光客に向けて、さりげなく手助けの意思を伝えることができます。知らない土地を旅する人にとって、母国の国旗模様は、ほっとする目印になるのではないでしょうか。言葉の壁をふわりと飛び越え、世界中の人に日本を楽しんでほしい。そんな気持ちを「身にまとうおもてなし」として表現しました。

＜デザインコンペ＞概要

テ　ー　マ：「おもてなし」
応 募 期 間：2015 年 6 月 26 日（金）～7 月 27 日（月）
審 査 方 法：書類審査
審　査　員：小山薫堂（放送作家／東北芸術工科大学教授）
　　佐藤　卓（グラフィックデザイナー）
　　柴田文江（プロダクトデザイナー／武蔵野美術大学教授）
　　原　研哉（グラフィックデザイナー／武蔵野美術大学教授）
　　水野　学（クリエイティブディレクター／慶応義塾大学特別招聘准教授）
協　　力：東京ミッドタウン・デザインハブ、株式会社 JDN
賞（賞 金）：グランプリ（1 点）――――――――――――――――――――――――――――――――¥1,000,000
　　準グランプリ（1 点）――――――――――――――――――――――――――――――――¥500,000
　　優秀賞（1 点）――――――――――――――――――――――――――――――――¥300,000
　　審査員特別賞（各 5 点）――――――――――――――――――――――――――――――――¥50,000
　　※受賞後、商品化のサポートを提供

※1　デザインコンペ　グランプリ受賞者を、毎年 4 月に開催される「Salone del Mobile Milano / ミラノサローネ国際家具見本市」開催中に、イタリア・ミラノへご招待いたします。世界最大規模の家具見本市として開催される「ミラノサローネ」は、デザイナーが自身の作品を発表できる展示場「サローネサテリテ」が設けられ、若手デザイナーの登竜門的な場所としても知られています。

グランプリ作品詳細及び準グランプリ、優秀賞、審査員特別賞の作品については、添付参考資料をご参照ください。

※アートコンペ、デザインコンペの各受賞作品画像は、以下の URL よりダウンロードいただけます。
http://www.tokyo-midtown.com/press/index_press.html

Tokyo Midtown Award 2015 受賞作品

＜アートコンペ＞ テーマ:「なし」

■ グランプリ

受賞作: 『五金超大国Ⅱ』(ごきんちょうたいこく2)

受賞者: 田島 大介(たじま だいすけ)

略 歴: アーティスト／愛知県立芸術大学美術学部美術科 彫刻専攻卒業。奈良県生まれ、愛知県在住

＜作品コンセプト＞
自分自身の居場所や存在意義を見失ったとき、孤独や不安を満たしてくれる自分だけの世界に閉じこもりたいと願いました。
この作品は憧れや切望するものだけに囲まれた自分の心の居場所であり、自分が信じることができる世界の姿です。

■ 準グランプリ

受賞作: 『東京的遭遇:六本木』(とうきょうてきそうぐう:ろっぽんぎ)

受賞者: 上坂 直(うえさか なお)

略 歴: 学生／武蔵野美術大学造形学部修士課程。富山県生まれ、東京都在住

＜作品コンセプト＞
地下から地上へ繋がる出口。そして、出口に切り取られた地上の風景との断片的な出会い。莫大な地下空間を移動できるようになった我々にとって、それはどこか不安を伴うような、都市的かつ東京的な入口だ。ロッカーという画一的な佇まいと不明瞭な空間性をもつアイテムを都市への扉とし、様々なものが断片的には垣間見えながらもその内側の不明瞭さが増大し続ける、そんな現代における大都市「東京」の在り方への違和感を込めたい。

■ 優秀賞

受賞作 ： 『グランドライン』
受賞者 ： 尾花 賢一（おばな けんいち）
略 歴 ： 美術作家
筑波大学芸術研究科洋画専攻修了
群馬県生まれ、千葉県在住

＜作品コンセプト＞
正体不明の覆面を被った人達。彼らは扉の前で行列をつくる。この先には何があるのか、何のために並んでいるのか。明確な答えは分からないけれど、想像すると幾つものドラマが生まれてくる。点在する情報を集めて、繰り広げられる物語を考えるのはあなた自身。それはあなたが作り上げたもの。作品を前にして、あなたとわたしの物語を一緒に語り合おう。きっとそこには新たな出会いと、多様な価値を受容する美しい未来への第一歩が生まれるのだから。

■ 優秀賞

受賞作 ： 『DEADPAN』（デッドパン）
受賞者 ： 阿部 岳史（あべ たけし）
略 歴 ： アーティスト
東北芸術工科大学美術科彫刻コース
研究生 修了、東京都生まれ、東京都在住

＜作品コンセプト＞
日常の中の、普段意識しない「死」の状態を再現することがテーマです。普段生活している多くの人にとって「死」とはあまり意識上に上がってこないと思います。「割といつも近くにいるよ。」と言わんばかりに無表情で見つめている「死」。
時折、存在を思い出し、恐怖ではなく静かな畏敬を感じる「死」。
「生」が溢れているこの場所で、ひっそりと佇む、淡い「死」を目にすることは、人生の中の死の存在そのもののように感じます。

■ 優秀賞

受賞作 ： 『Ebb』（えぶ）
受賞者 ： 風間 天心（かざま てんしん）
略 歴 ： 美術家、僧侶
武蔵野美術大学造形研究科
美術専攻油絵コース 修了
北海道生まれ、北海道在住

＜作品コンセプト＞
各家へお参りに行くと、床の間には多くの文化が同居していることに驚きます。特に「水引」という文化に、仏教や神道といった「信仰」ではない日本独自の「こころ」を感じました。日本は現在、社会的にも物理的にも大きな波の危険に晒されていますが、どんな波に飲まれても文化は形を変えて残ります。中国の文化を日本流にアレンジした水引ですが、それを再度アレンジし、信仰に依存しない「新たな形の祭壇」を残そうとしています。

■ 優秀賞

受賞作 ： 『未確認生命体』（みかくにんせいめいたい）
受賞者 ： 三上 俊希（みかみ としき）
略 歴 ： 学生
愛知県立芸術大学美術研究科
彫刻専攻 在学中
静岡県生まれ、愛知県在住

＜作品コンセプト＞
突如出現した何かが鼓動を始めた。産み落とされたのか、異次元から現れたのかはわからない。
それは今にも内部から何かが飛び出してきそうだ。何かはわからないが中に生命体がいるのは確かだ。

■ 児島　やよい／Yayoi KOJIMA

（フリーランス・キュレーター／ライター／慶応義塾大学、明治学院大学非常勤講師）

表現メディアの多様さが、それぞれの個性を反映して、おもしろい6作品が残った。場所性を取り込み、テーマにも展示にも生かしている作品が、やはり特筆に値する。そして、意識的にしろ無意識の表出にしろ、今の時代を色濃く映した作品が揃ったのは興味深い。それもアーティストの力であると改めて感じた。グランプリ、準グランプリの二人は若く、今後の活動をしっかり見ていきたい。他の入賞者も実力は高く、このアワードを機にますます活躍されることと思う。

Photo by Herbie Yamaguchi

■ 清水　敏男／Toshio SHIMIZU

（東京ミッドタウン・アートワークディレクター／学習院女子大学教授）

作品の質が向上したことを実感し、回数を重ねるということの効果がよく現れた審査だった。メディアも多岐にわたり、それぞれ完成度が高い。最終審査に残った作家は今後の活躍を大いに期待したい。しかしあえて注文するとしたらもっと型破りでもよかった、ということである。最終作品では審査員を驚かすほどの跳躍が期待される。自分のコンセプト、表現をぶれることなくとことん追求して欲しい。どこまで追求できるかが作家の度量、今後の活躍の可能性を示唆する。

■ 土屋　公雄／Kimio TSUCHIYA

（彫刻家／愛知県立芸術大学教授／武蔵野美術大学客員教授）

最終選考を終えて改めて感じたことは、今回の受賞者それぞれが、実に真摯に「場」を考察し、商業施設が並ぶ特殊な環境と連続しながら作品を成立させているかということである。美術館やアートギャラリーとも異なる多目的空間に、アートを表現することは至難のわざである。受賞された個々の作品と対峙するとき、それら作品に内在する「都市」や「人間」、また「現代」への問いかけが複雑に絡み合い表現された作品はアートの醍醐味であり、多くのギャラリーにこの魅力を味わっていただきたい。

Photo by Miura Haruko

■ 中山　ダイスケ／Daisuke NAKAYAMA

（アーティスト／東北芸術工科大学グラフィックデザイン学科教授）

公共商業施設内での展示ということで、難しい安全基準などをクリアしながらも提示された皆さんの「展示」の完成度は、例年よりもとても高かったと感じます。ただ本来シンプルだったはずの作品の本質が、展示をこなすことによって薄らいだようにも見え、逆に「表現」の完成度が凡庸になった方も多かったように感じます。そんな中、実展示を見て期待よりも評価が上回ったのは田島大介さんの細密画です。心象風景として描かれたありえない数のビル群は強く、そして周囲の音をかき消すほどに静かでした。

■ 八谷　和彦／Kazuhiko HACHIYA

（メディア・アーティスト／東京藝術大学先端芸術表現科准教授）

今回のアワードでは完成度の高い作品が揃ったと感じる。実際、グランプリを決めるための最終審査では審査委員の間で票が割れた。この激戦を制した田島さんの空想上のビルを細密描写し、鳥瞰する作品には、ずいぶん長い時間目を楽しませてもらった。一方、このアワードも８年目を迎え、展示される作品に、やや定番感が出てきたようにも感じていたが、公共空間の中に唐突にロッカーを置き、そのなかに地下鉄出口があるという入れ子構造の作品で挑戦してきた準グランプリの上坂さんの作品にはセンスを感じた。この作品もグランプリ同様に評価したいと思う。

＜デザインコンペ＞　テーマ:「おもてなし」

■　グランプリ

受賞作　：『ことはね』

受賞者、略歴　：

・吉田　貴紀（よしだ　たかのり）
　会社代表、クリエイティブディレクター／大阪府出身
　1996 年大阪ヒューマンアカデミー卒業

・栗原　里菜（くりはら　りな）
　会社員、プランナー／埼玉県出身
　2009 年早稲田大学大学院　人間科学研究科卒業

＜作品コンセプト＞
国旗模様の羽は「私はこの国の言語を話せます」という表明。胸元や帽子にファッション感覚で身につければ、日本へ訪れた外国人観光客に向けて、さりげなく手助けの意思を伝えることができます。知らない土地を旅する人にとって、母国の国旗模様は、ほっとする目印になるのではないでしょうか。言葉の壁をふわりと飛び越え、世界中の人に日本を楽しんでほしい。そんな気持ちを「身にまとうおもてなし」として表現しました。

■　準グランプリ

受賞作　：『浮世絵プチプチ』(うきよえぷちぷち)

受賞者　：　でんでんたますこ

略　歴　：

・清水　覚（しみず　さとる）
　会社員、プランナー／2014 年多摩美術大学　情報デザイン学部
　情報デザインコース卒業、東京都出身
・山根　準（やまね　ひとし）
　会社員、アカウントプランナー／2014 年大阪大学
　基礎工学部システム科学科卒業、島根県出身
・菅原　竜介（すがわら　りゅうすけ）
　会社員、デザイナー／2014 年多摩美術大学　造形表現学部
　デザイン科卒業、東京都出身
・上久保　誉裕（うえくぼ　たかひろ）
　会社員、デザイナー／2014 年武蔵野美術大学　造形学部
　視覚伝達デザイン学科卒業、茨城県出身

＜作品コンセプト＞
浮世絵の印刷されたプチプチです。贈り物を保護する目的で使用されるプチプチですが、浮世絵を描くことで、荷物を受け取った時のサプライズが加わるようにしました。20 世紀初頭、日本人は浮世絵の刷り損じを緩衝材として、陶磁器を輸出し、ヨーロッパ人を驚かせていたと言います。その驚きを現代に蘇らせました。

■　優秀賞

受賞作　：『落雁ポーション』(らくがんぽーしょん)

受賞者、略歴　：

・小川　貴之（おがわ　たかゆき）
　会社員、デザイナー／2013 年多摩美術大学　美術学部グラフィック
　デザイン学科卒業、東京都出身
・山本　絵理香（やまもと　えりか）
　会社員、コピーライター／2010 年東京理科大学　理工学部　建築学科
　卒業、千葉県出身
・市川　直人（いちかわ　なおと）
　会社員、コピーライター・CM プランナー／2008 年国際基督教大学
　教養学部卒業、東京都出身

＜作品コンセプト＞
落雁を象ったガムシロップとミルクのセット。
ガムシロップとミルクは常にコーヒーの横に添えられるものの、これまでその形状は常に一定で、変わることがありませんでした。そこで、花などの四季の形を纏い、季節毎にその形を変える日本ならではの干菓子「落雁」に着目。
これら２つを組み合わせることで、見た目にもおいしい、新しいおもてなしをつくりました。

＜審査員特別賞＞

■　小山薫堂賞

受賞作　：『ねこ寿司』(ねこずし)

受賞者、略歴　：

・小川　貴之（おがわ　たかゆき）
会社員、デザイナー／2013 年多摩美術大学　美術学部グラフィックデザイン学科卒業、東京都出身

・山本　絵理香（やまもと　えりか）
会社員、コピーライター／2010 年東京理科大学 理工学部 建築学科卒業、千葉県出身

・市川　直人（いちかわ　なおと）
会社員、コピーライター・CM プランナー／2008 年国際基督教大学教養学部卒業、東京都出身

＜作品コンセプト＞
ねこがそこに収まることでお寿司ができあがる、ねこ用のベッド。あなたの愛するねこへのおもてなしが、あなたの目にも美味しいおもてなしになります。囲われた場所へ好んで入ってくるという、ねこの持つ習性に着目。気づいた時にはいつもそこに、握りたてのねこの軍艦巻きができあがっているでしょう。

■　佐藤　卓賞

受賞作　：『はしおきガム』

受賞者、略歴　：

・竹尾　太一郎（たけお　たいちろう）
会社員、デザイナー／2008 年東京造形大学　造形学部 デザイン学科グラフィックデザイン専攻卒業、徳島県出身

・竹尾　梓（たけお　あずさ）
会社員、デザイナー／2008 年東京造形大学　造形学部 デザイン学科グラフィックデザイン専攻卒業、新潟県出身

＜作品コンセプト＞
焼肉屋などでは、サービスとして食後にエチケットガムを手渡されることがあります。しかし、店側から口臭対策を促されるのは妙にナンセンス。食事と共に１つのおもてなしとしてガムを提供するには、はじめから風景の中にこっそりあった方が自然だと思いました。

■　柴田文江賞

受賞作　：『日本古紋様写飾紙』
（にほんいにしえもんようううつしかざりかみ）

受賞者　：　橋本　真実(はしもと　まみ)

略　歴　：　会社員
2013 年京都市立芸術大学大学院　デザイン科プロダクトデザイン専攻修了、和歌山県出身

＜作品コンセプト＞
私にとってレースペーパーを敷いていることは少し特別な感じがあり、うれしい気分にさせてくれます。
今までのレースペーパー以上に特別感のある柄をと思い古い時代の名工作などのお皿を紋様として採用しました。
それはそのような器は使うことはおろか実際触れることすら難しく特別そのものだと思ったからです。
それらをこの作品で再構成することのより、実際に手にふれ特別感や日本の文化を味わってもらえればと思います。

■　原　研哉賞

受賞作　：『充電ざぶとん』(じゅうでんざぶとん)
受賞者　：ビアデザイン
略　歴　：

・遠藤　生萌（えんどう　いくも）
　会社員、デザイナー／2014 年千葉大学大学院　工学研究科デザイン科学専攻修了、静岡県出身
・池ヶ谷　優子（いがや　ゆうこ）
　会社員、デザイナー／2014 年千葉大学大学院　工学研究科デザイン科学専攻修了、福井県出身

＜作品コンセプト＞
おもてなしとは、お客様を迎え入れ安らげる空間をつくること。
足を運んでくれた、お客様とその相棒に疲れを忘れてもらいましょう。
置くだけでさりげなく充電してくれるのが、このざぶとんのいいところ。
お客様もその相棒も、きっと喜んでくれます。

■　水野　学賞

受賞作　：『縦書きレシート』(たてがきれしーと)
受賞者　：吉田　茉莉(よしだ　まつり)
略　歴　：学生
　　東海大学 国際文化学部デザイン文化学科 3 年在学中
　　北海道出身

＜作品コンセプト＞
一般的な「横書き」のレシートを「縦書き」にすることで、日本独特の「おもてなし精神」を表現しました。
透かしてみると「ありがとうございました」という文字も見えます。
さりげなさこそが日本人らしさであり、本当の「おもてなし精神」ではないでしょうか。

＜デザインコンペ＞　審査員総評

photo by Hiromi Shinada

■　小山薫堂　/ Kundo KOYAMA

（放送作家／東北芸術工科大学教授）

　今年の審査は例年に比べて簡単だったように個人的には感じられた。というのも、「おもてなし」というテーマに対する応募者の回答（作品）が比較的似通っていたからだ。誰もが思いつくもの（同じ傾向のもの）はバッサリと切り捨て、個性あるものを残していくという作業を最初に行った。これだけ多くの応募作品が集まるコンペティションでは、理屈っぽいものは選ばれにくい。メッセージしたいことが明確でシンプル、そして何より潔いデザインに票が集まったのではないだろうか。時節柄、今回の審査で例年以上に時間を費やしたのが「類似作品チェック」だった点が最も印象的だった。デザインの解釈って難しいですね。

■　佐藤　卓　/ Taku SATOH

（グラフィックデザイナー）

　東京オリンピック招致の時のプレゼンテーションで、日本の「おもてなし」という言葉が改めて注目されました。しかし、そもそも日本の「おもてなし」は、気づかれないくらいさり気なくするものでしょう。いかにも持て成していることを相手に分かるようにするのは、日本人としていかがなものかと思います。心地よい「おもてなし」は、相手への気遣いがあって初めて成立するデリケートな感覚です。やり過ぎはおせっかいですし、やり足りないのであればいっその事やらないでほしいと思うものです。やるなら気づかれないくらいさり気なく。中途半端ならやらない。現代、自分中心のワガママな世の中で、自分を押し殺して相手を優先することができるのかどうかが、

この言葉で問われているように思います。「おもてなし」の感覚は、考えてみるとこのように現代社会の大きな問題とも繋がっているいいテーマなのです。それでも、Tokyo Midtown Award は、そんな難しいことはさておいて、面白い提案に出会える楽しい場でもあります。今年も、とてもユニークな提案が賞を獲りました。いつものように今後、少しでも商品化されることを願っています。

■ 柴田文江 / Fumie SHIBATA

（プロダクトデザイナー／武蔵野美術大学教授）

デザインには色々な機能があります。中でも人をもてなすというのは、デザインの得意なことのひとつ。誰かのためによりわかり易く、使い易く、ここちよくなるようにと考える、そういうことが得意です。デザインによって新しいコミュニケーションが生まれる時、言葉では伝わらない暖かなものが届けられ、それまでの日常とは違う景色がみられるかもしれません。ひとつのモノ、ひとつのデザインから生まれるそういう新しい未来にデザインが役立つことを願いつつ、審査に取組みました。そしてその力を秘めた、いくつかの提案に巡りあえた審査会だったと感じました。

■ 原 研哉 / Kenya HARA

（グラフィックデザイナー ／ 武蔵野美術大学教授）

「おもてなし」という言葉については、いつも微妙な印象を抱いている。「お」は不要、「もてなし」で十分、と思ってしまう。ただし、Tokyo Midtown Award の場合は「お」が入ってしっくりおさまる。多少のユーモアというか「なんちゃって」のエッセンスが少し混入しているのがこの賞である。だから、Tokyo Midtown Award の「おもてなし」というテーマは「なんちゃって、もてなし」大賞というニュアンスを多少とも含むのだろうなぁと思いつつ審査をした。

そういうやわらかさのある作品が選ばれたと思う。

■ 水野 学 / Manabu MIZUNO

（クリエイティブディレクター／慶応義塾大学特別招聘准教授）

かつて、大航海時代に世界が激変した後に、ルネサンスがイタリアを中心に興った。

時を同じくして、日本でも安土桃山文化が興り、多くの美術工芸品がこの世に産み落とされた。これは、単なる偶然では無い。この小さな惑星の、小さな世界は、「うねり」が支配しているのだと思う。時代が文化を作るのか、文化が時代を作るのか。何れにせよ、時代と文化は密接な関係にあり、その組み合わせは螺旋の如く絡み合って、人々をうねりの中へと引きずり込む。こうして、いつの時代も文化は、その時代に生きる多くの人を魅了し、翻弄し続けて来たのである。今、世界は再び文化のうねりを見せ始めている。本アワードもまた、そのうねりを生み出す、小さな小さな一つの因子なのだと思う。この小さな小さなうねりが、やがて多くの人を巻き込み、巻き込まれた人々が一人でも多く幸せになるようなデザインが育つことを願う。

東京ミッドタウン・オーディエンス賞

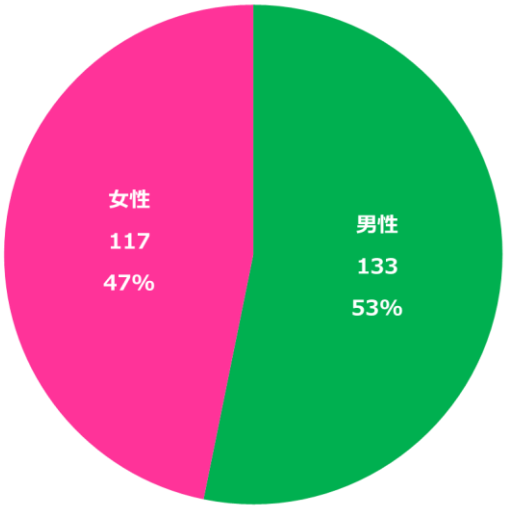
10 月 16 日（金)の授賞式にて発表する＜アートコンペ＞、＜デザインコンペ＞の受賞作品は、10 月 16 日（金）～11 月 8 日（日）まで東京ミッドタウン・プラザ B1 F 展示スペースにて展示されます。また、東京ミッドタウンのデザインイベント「Tokyo Midtown DESIGN TOUCH」期間中の 11 月 3 日（火・祝)まで、同会場で来街者の一般人気投票を実施し、「東京ミッドタウン・オーディエンス賞」を決定します。

▲2015 オーディエンス賞投票箱イメージ

▲昨年の投票の様子

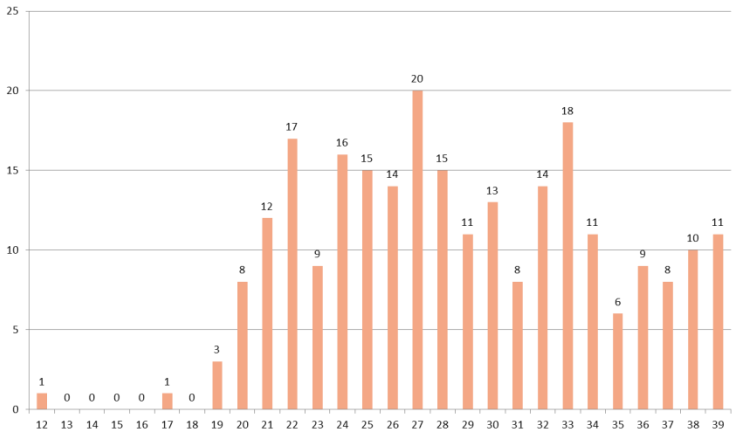
＜アートコンペ＞　応募者データ

● **応募総数男女比 （件）**

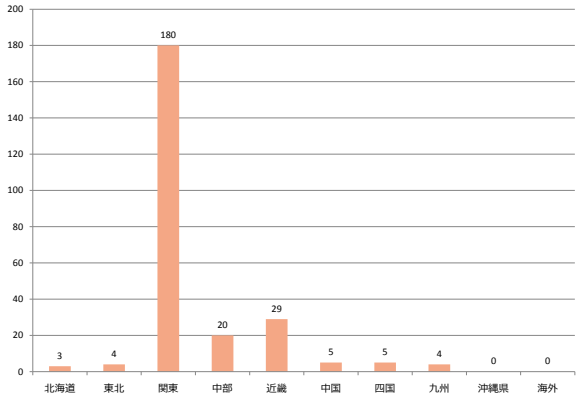


● **年齢分布 （件）**

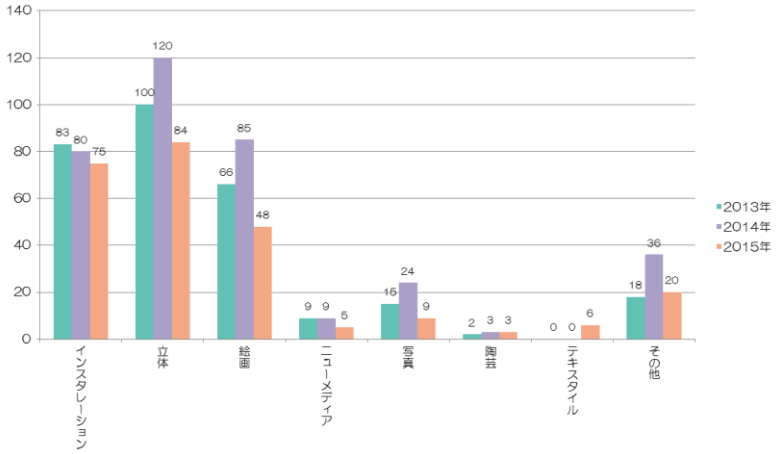
平均年齢 28.7 歳



● **地域別応募者数 （件）**



● **分野別応募者数 （件）**

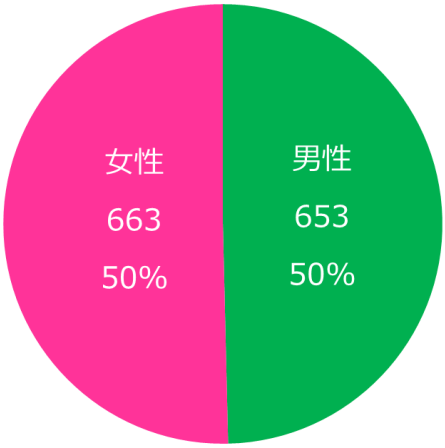


■応募者数…250 名（組）

■傾向…今年度は、昨年に引き続き、応募者にテーマから設定してもらい、作品提案をしていただきましたが、年々応募の質が高くなっており、本コンペをより理解して応募してこられる方が多いことが伺えました。また、昨年以上に完成度が高く、公共性の高い商業スペースである「場」を取り込んだ作品が多かったこと、昨年度テキスタイル作品がはじめて入賞したことも影響してか、テキスタイルの応募が増加したことは今年度の特徴です。

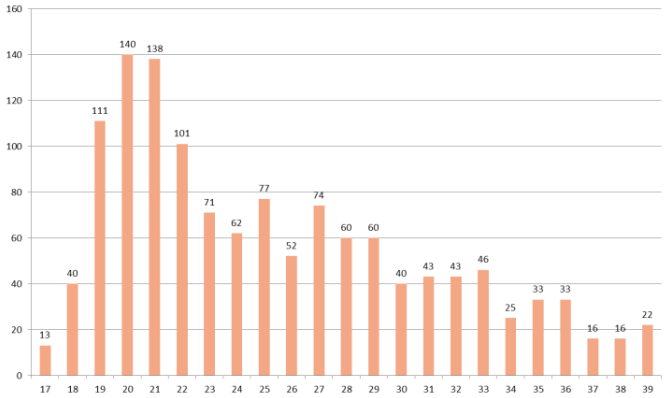
＜デザインコンペ＞　応募者データ

- **応募総数男女比 （件）**

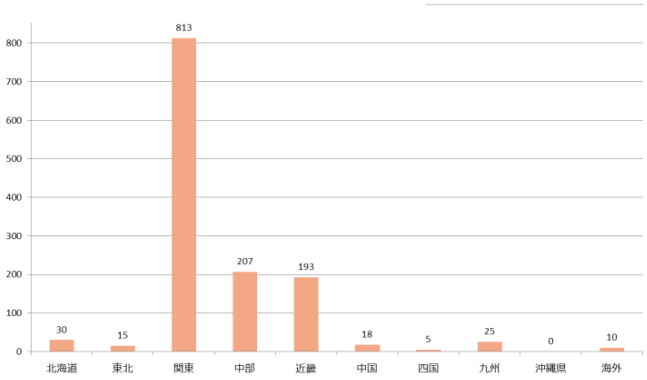


- **年齢分布 （件）**

平均年齢 26.5 歳



- **地域別応募者数 （件）**



■応募者数…1,051 名（組） / 作品数…1,316 点
■傾向…今年の＜デザインコンペ＞は「おもてなし」をテーマに募集し、1,316 点の応募がありました。
例年と比較して、箸置き、湯のみ、マグカップ、お皿、コースター等食事に関する提案を多くいただきました。
洋の東西を問わず「おもてなし」と食が密接に関わっていることの現れかと思います。

Tokyo Midtown Award 2015　総括

開催 8 回目にして初めて、デザインコンペで 2 つの賞のダブル受賞が誕生しました。
審査時には、応募者の個人情報はすべて伏せ、作品プレゼンシートのみで審査を行う本コンペ。
複数案を応募する個人・グループは毎年数が多いので、これまでも可能性はゼロではありませんでしたが、1,300 点を超える作品からのダブル受賞は驚きの結果でした。アートコンペについても年々レベルが高まり、海外のアートプログラム招聘も 3 年目となります。
今後も、若いデザイナーたちの力試しの場、若手アーティストの登竜門の一つとして、本アワードが盛り上がりを見せることを願っています。

狩谷　俊介
東京ミッドタウンマネジメント株式会社　タウンマネジメント部